

ナンバリングコード B2MAU-bacG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード:010051) 特別・複合領域 multi-area unit 書物との出会い-学問することの喜び Discovering the Joy of Learning through Reading	科目区分 学問基礎科目	時間割 2022年度 前期木1	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 特別・複合領域	提供部局:大教センター DPコード: bac	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 佐藤 慶太, 北林 雅洋, 杉田 貴瑞, 張 暁紅, 山本 陽一, 渡邊 史郎	関連授業科目 哲学C、哲学D、倫理学C、歴史学A		
履修推奨科目			
学習時間 学習時間 講義90分×15回+自学自習(事前学習30時間相当+事後学習30時間相当)			
授業の概要 すぐれた書物は、今まで知らなかったものの見方や、新しい世界を私たちに示してくれます。この時の驚きや感激が学問の原点です。「書物との出会い」では、そのような経験をし、学問的見方のおもしろさの一端に触れ、読書による探求になじむことを目的としています。 この授業では、「近代ヨーロッパと現代」をテーマとします。授業では、私たち自身との関係を軸にして、「近代ヨーロッパ」に関わる書物を、皆さんと一緒に読み解いていきます。			
授業の目的 人文・社会科学に関わる書物やその背景となっている学問と出会い、それらが提示する知的世界の広がりや深さに触れると共にいくつかの学問的なものの見方やアプローチの仕方を理解する。また、それらの経験を通して知的読書を習慣とするきっかけをつかむ。			
到達目標			
1. 改めて書物と出会い、その経験について述べられる。 (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 書物の読解を通じて、いくつかのものの見方、探求の仕方を学び、実際にそれらを活用できるようになる。 (共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 知的読書を習慣とするための第一歩として、課題図書を通読し、それについて自分の考えをまとめることができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」、「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への取組 (30%)、前半終了時レポート1回 (15%)、後半終了時レポート1回 (15%)、課題図書レポート1回 (40%) *課題図書レポートの締め切りは9月末とし、成績は後期授業のそれと同時期に発表する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第01回 オリエンテーション 第02回 実験と技術 ―ガリレオの時間測定と天秤(北林雅洋) 第03回 技術と規制 ―産業革命直後のイギリスにおける「社会的殺人」(北林雅洋) 第04回 福沢諭吉の「報国心」を中心に(山本陽一) 第05回 アダム・スミスの「祖国愛」を中心に(山本陽一) 第06回 「人権」概念はどこから来たのか―啓蒙主義と「人権」(佐藤慶太) 第07回 「人権」概念はどこに向かうのか―現代における「人権」の問題(佐藤慶太) 第08回 ディスカッション・前半まとめ(北林・山本・佐藤) 第09回 魯迅と「救国」―作家魯迅を読む(張暁紅) 第10回 近代中国知識人が目指した「救国」の道(張暁紅) 第11回 クリスマスと貧困:チャールズ・ディケンズ『クリスマス・キャロル』(杉田貴瑞) 第12回 英文学輸入:明治日本と英文学(杉田貴瑞) 第13回 〈西洋=近代〉と日本近代文学(渡邊史郎) 第14回 戦時下の「近代の超克」以降(渡邊史郎) 第15回 ディスカッション・全体まとめ			
【授業及び学習の方法】 第1回のオリエンテーションのあと、1人の教員が2回ずつ授業を担当します。計4回授業が終わった時点で、前半のまとめとして、ディスカッションがおこなわれます(第8回)。ディスカッションでは、受講生が討論に参加することもできるので、積極的に取り組んでください。第9回以降も、ほぼ同様の流れで進みます。また、この授業は15回で完結するものではなく、授業終了後から9月30日までの間に、課題図書を1冊以上読み、それについてのレポートを提出する必要があります。希望すれば、レポートに対して教員からのコメントをもらうことができます。知的読書の習慣をつくるきっかけをつかんでください。			

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

この授業は知的読書を習慣とするきっかけをつかむことを目的の一つとしているので、授業で紹介された書物を授業時間外に積極的に読むようにしてください。その読書をもとに、前半終了時レポート・後半終了時レポートと課題図書レポートを作成する必要があります。また、それらとは別に、事前・事後学習の課題を出す授業担当者もいますので、授業中の指示を聞き漏らさないようにしてください。

教科書・参考書等

教員が授業中に書物を紹介します。紹介図書の内容については、リーディングリストに掲載されます。

<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/students/class/readinglist/>

オフィスアワー 全般的な点については、コーディネーターの佐藤慶太まで（オフィスアワー：木曜日 13:00～15:00、研究室は、幸町北キャンパス5号館5階）。個々の授業内容については、授業中に講義担当者に相談のこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

複数教員によるリレー形式の授業です。全教員の授業に出席することが評価の前提となります。受講者は100名を限度とします。なお、さらなる学習を望む人は課題図書のレポートを2つ以上提出し、担当教員からの指導を受けることができます（ただし、成績評価の対象にはなりません）。また、関連企画として香川大学図書館所蔵の貴重図書をテーマとした講演会を授業外に開催します。ぜひ参加してください。

ナンバリングコード B2MAU-baxG-1N-Lg2 授業科目名 (時間割コード:010052) 特別・複合領域 multi-area unit 書物との出会い-学問することの喜び ロ Discovering the Joy of Learning through Reading	科目区分 学問基礎科目	時間割 2022年度 前期火4	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 特別・複合領域	提供部局:大教センター DPコード:bax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 西本 佳代, 安井 行雄, 黒澤 あず さ, 大塚 美菜子, 守田 逸人	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 高校までの教育は、一般に、定められた授業内容を理解し、暗記し、すでに解答のある問題を解くことに主眼をおいてきました。また現在私たちはインターネットなどで多くの情報に接していますが、それらは断片的な性格をもっています。一方、大学で学ぶ学問は、それらの情報をどのような視点から整理し、問題点を見つけ出し、どのような方法で解決を探究していくかを提示してくれます。そのような高校から大学の学びへの転換をはかる有効な第一歩は書物と出会うことです。すぐれた書物は、今まで知らなかったものの見方や、新しい世界を私たちに示してくれます。この時の驚きや感激が学問の原点です。この講義では、そのような経験をし、学問的見方のおもしろさの一端に触れ、読書による探究になじむことを目的としています。 「学問することの喜びロ」は、「女と男」をテーマとします。「女と男」は私たちに身近であり、かつ多様な専門領域からのアプローチが可能なテーマです。例えば、生物学的な違いはもちろんですが、恋愛や結婚、家族の問題、あるいは「女と男」と二分することについて考えてみたり、歴史的变化について検討したりすることもできます。「女と男」に関係する書物を読み解き、豊富な視点をすることで、受講生の新たな世界が開かれるよう期待しています。			
授業の目的 人文・社会・自然科学に関わる書物やその背景となっている学問と出会い、それらが提示する知的世界の広がりや深さに触れると共にいくつかの学問的なものの見方やアプローチの仕方を理解する。また、それらの経験を通して知的読書を習慣とするきっかけをつかむ。			
到達目標			
1. 改めて書物と出会い、その経験について述べるができる。 2. 書物の読解を通じて、様々なものの見方、探究の仕方を学び、実際にそれらを活用できるようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 知的読書を習慣とするための第一歩として、課題図書を読み、それについて自分の考えをまとめることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 授業への取組(30%)、前半修了時レポート1回(15%)、後半修了時レポート1回(15%)、課題図書レポート1回(40%) *課題図書レポートの締切は9月末とし、成績は後期授業の成績発表時に示す。 *前半修了時レポート・後半修了時レポートはそれぞれ1200字程度、課題図書レポートは2000字程度。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション<ハイブリッド型>(西本佳代他) 第2回 女と男の進化生物学1/無性から多性に、そして二性(雌と雄)へ(安井行雄)<ハイブリッド型> 第3回 女と男の進化生物学2/雌と雄から女と男へ(安井行雄)<ハイブリッド型> 第4回 女と男の社会学1/結婚の社会学(西本佳代) 第5回 女と男の社会学2/少子化問題の社会学(西本佳代) 第6回 女と男のジェンダー論1/イクメン(黒澤あずさ) 第7回 女と男のジェンダー論2/生理の貧困(黒澤あずさ) 第8回 前半のふりかえり(安井・西本・黒澤)<ハイブリッド型> 第9回 女と男の心理学1/古典(大塚美菜子) 第10回 女と男の心理学2/近代(大塚美菜子) 第11回 女と男の社会史1/紛争・刑罰の性差(守田逸人) 第12回 女と男の社会史2/生活の性差(守田逸人) 第13回 香川大学図書館蔵神原文庫の収蔵史資料とその性格(守田逸人) 第14回 全体のふりかえり(安井・西本・黒澤・大塚・守田)<ハイブリッド型> 第15回 まとめ<ハイブリッド型>(西本佳代他)			
【授業及び学習の方法】 第1回のオリエンテーションのあと、1人の教員が2回ずつ授業を担当します。第8回と第14回では、授業担当者が振り返りを行います。この授業は15回で完結するものではなく、授業終了後から9月30日までの間に、課題図書を1冊以上読み、それについてのレポートを提出する必要があります。希望すれば、レポートに対して			

教員からのコメントをもらうことができます。知的読書の習慣をつくるきっかけをつかんでください。

この科目は原則、対面授業を行います。【授業計画】に＜ハイブリッド型＞と記載されている場合、他キャンパスからオンライン（リアルタイム）で教員が参加します。受講生の皆さんは、講義室のスクリーンでその映像を視聴します。個別にパソコンで視聴することは予定されていません。

【自学自習のためのアドバイス】

この授業は知的読書を習慣とするきっかけをつかむことを目的の一つとしているので、授業で紹介された書物を授業時間外に積極的に読むようにしてください。その読書をもとに、前半修了時レポート・後半修了時レポートと課題図書レポートを作成する必要があります。また、それらとは別に、事前・事後学習の課題を出す授業担当者もいますので、授業中の指示を聞き漏らさないようにしてください。

教科書・参考書等

リーディング・リスト（詳しくは『全学共通科目修学案内』に記載）参照

オフィスアワー 全般的な点については、コーディネーターの西本（オフィスアワー：水曜日2時間目・5号館4階）へ。個々の講義内容に関しては、授業中に講義担当者に相談のこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

複数教員によるオムニバス形式の授業です。受講者は100名を限度とします。前半・後半課題図書、期末課題図書は図書館に配架されていますが、数に限りがあるので、自分が利用したいときに、借りられている場合もあります。その際は、自分で書籍を購入する必要があります。

ナンバリングコード B2MAU-baxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:010071) 特別・複合領域 multi-area unit 分離する文理と大学 Bunkei (Letters) and Rikei (Science) in Japanese Universities	科目区分 学問基礎科目	時間割 2022年度 後期火1	対象年次 1～
	水準 学士:基礎科目 分野 特別・複合領域	提供部局:大教センター DPコード:bax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 蝶 慎一	関連授業科目 学問への扉 全般		
履修推奨科目			
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 大学生になると学部にも所属しながら多様な学問にふれることとなります。これまで受けてきた高校教育や大学受験までの「文理」選択を振り返りながら、今後大きく広がる学びの世界を理解し、大学における学びや学問の融合や学際的な動向について知り、理解する時間とします。			
授業の目的 大学における多様な学問や体系的な知の世界を理解するために、これまで大学や学問において「分離する文理」、「文系」「理系」の現状やそれらに関連する大学が抱える問題を知り、今後の課題を認識する。			
到達目標			
1. 近年の「文系」「理系」に関連する基礎的な知識・理解を幅広く習得し、歴史的な視点から具体的に説明できる(共通教育スタンダード「b 広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 大学における「文系」「理系」という枠組みを再考するきっかけを見つけるとともに、自分自身の高校教育や大学受験までの学びや、所属学部でのこれからの学びについて具体的に討議できる(共通スタンダード「a 課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 「文系」「理系」に関連した興味関心のあるトピックについて、大学・学問の世界やメディアなどでどのような議論や報道がされているのかを理解することで学部専門課程を進んでいく際に必要な学問的基礎を身に付けることができる(共通教育スタンダード「b 広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
成績評価の方法と基準 ・各週の「振り返りシート」、授業でのディスカッションへの取組、70%(到達目標の1及び2.に対応) ・最終レポート 30%(到達目標の1.及び3.に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1週 オリエンテーション—新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と「文理」 第2週 高校教育までの勉強と「文理」 第3週 大学入試と「文理」①:試験科目の総合化 第4週 大学入試と「文理」②:選抜方法の多様化 第5週 大学教育と「文理」①:学部の歴史 第6週 大学教育と「文理」②:海外の教養教育と専門教育の動向 第7週 大学教育と「文理」③:国内の教養教育と専門教育の動向 第8週 大学教育と「文理」④:STEMからSTEAMへ、芸術、人文学への注目 第9週 大学教育と「文理」⑤:ジェンダー 第10週 就活・企業・産業界と「文理」①:進路選択と学歴、専門性 第11週 就活・企業・産業界と「文理」②:儲かるか、必要か、役立つか 第12週 研究と「文理」①:大学院教育 第13週 研究と「文理」②:アカデミア・研究分野 第14週 2040年の「文理」を想像する 第15週 まとめ—「分離」しない「文理」の可能性 【授業及び学習の方法】 この授業は、基本的な知識・理解を深める講義、受講生どうしのディスカッションの活動で構成されます。特に、ディスカッションを通じて受講生どうしのコミュニケーションや新たな気づきを積極的に促進します。大学入学し、あらためて「文系」「理系」という枠組みをあらためて問い直すきっかけを創るため、興味関心のある文献を読むことを推奨します。なお、受講生の人数や学習関心等で授業計画(各週で扱う内容)が前後することがあります。 【自学自習のためのアドバイス】 自身が関心のある「文系」「理系」に関するトピックについて、①最近5年以内の学問的な書物を大学図書館などで入手し(10時間)、②それらの中から数冊を選択(5時間)、簡潔に要約し(15時間)、③著者の主張(結論)の面白い箇所や今後読んでみたい書物についての情報を文章で説明してください(30時間)。その際に下記で示している参考書等も活用してください。なお、この自学自習は、授業における最終レポートの作成準備になります。			

教科書・参考書等

教科書：特にありません。

参考文献：隠岐さや香『文系と理系はなぜ分かれたのか』（星海社新書137）星海社、2018年。

福留東土・戸村理・蝶慎一編『教養教育の日米比較研究』（高等教育研究叢書158巻）広島大学高等教育研究開発センター、2021年。

石井洋二郎編『21世紀のリベラルアーツ』水声社、2020年。

チャールズ・P・スノー（松井卷之助訳）『二つの文化と科学革命』みすず書房、2011年。

オフィスアワー 基本的には、火曜日2校時、研究室は、北キャンパス5号館4階です。詳細は、担当教員に相談して下さい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各週に出席確認を兼ねて「振り返りシート」を書いてもらいます。前提となる知識は特に不要です。

高校教育や大学受験で分かってきた「文理」の枠や大学・学問のあり方について是非一緒に考えてみましょう。

ナンバリングコード B2MAU-baxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:010061)	科目区分 学問基礎科目	時間割 2022年度 後期木5	対象年次 1～
特別・複合領域 multi-area unit	水準 学士:基礎科目 分野 特別・複合領域	提供部局:大教センター DPコード:bax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
自然科学基礎実験 Basic Experiments of Natural Science	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 丸 浩一, 鶴町 徳昭, 高橋 尚志, 寺尾 徹, 山田 佳裕, 石井 知彦, 横 平 政直	関連授業科目 物理学P 化学P 生物学P 地学P		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
自然科学の各分野の専門家が、文系の学生向けに高校での履修の有無にかかわらず、様々な実験を通して現代科学の先端部分の成果や科学の方法と社会の関わりなどをわかりやすくリレー講義する授業である。			
授業の目的			
現代社会は科学技術の成果の上に成り立っており、その存在抜きには社会生活を営むことができない。本授業は、特に文系の学生が、そういった基礎的な科学技術のエッセンスを実験を通して理解することを目的とする。			
到達目標			
現代社会の基礎となる科学技術の基礎基本を理解することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
科学の方法論を体験的に理解することができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
科学の基礎と方法を、自分なりの言葉で語ることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準			
毎回のレポートにより評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回・・・ ガイダンス、授業の概要、進め方など			
第2～7回・・・ 以下のテーマを順不同に行う マイクロスケールケミストリー(化学) プラスチックから電池～導電性高分子の作製とエレクトロクロミズム(化学) 身の回りから学ぶ地球科学(地学) 光の不思議を知ろう(物理) 生命の不思議 遺伝子について(生物) など			
第8回・・・ 中間まとめ			
第9～14回・・・ 以下のテーマを順不同に行う 食用肉の組織を観察し、その生体機能について考える(生物) 電気で音を見よう(物理) 磁気を観察してみよう(物理) 白い粉を同定しよう(化学) 衛星データを用いた高松の環境調査(地学) 地球大気のながれを再現する(地学) など			
第15回・・・ まとめ (取り扱うテーマは順不同です またテーマの追加, 変更する場合があります)			
【授業及び学習の方法】			
最初に、実験を行うのに必要な知識についての講義・実習を対面にて行う。そして、本授業の位置付けについても講義する。その後個人で、あるいはグループで各週につき1つのテーマについて講義と実験を対面にて行う。			
【自学自習のためのアドバイス】			
第1回 安全学習の手引き『実験を安全に行うために』を良く読み、次週以降に備える(6時間)			
第2～7回 課題を出すので、その課題に取り組む(12時間) 各会の授業前に背景などを調べる(6時間)			
第8回 中間まとめのために前半を振り返る(6時間)			
第9～14回 課題を出すので、その課題に取り組む(12時間) 各会の授業前に背景などを調べる(6時間) 途中グループのプレゼンの学習と準備(6時間)			
第15回 全体のまとめのために特に後半を重点的に振り返る(6時間)			

自学自習として各回の授業前に背景などを調べるとともに、授業後に、行った実験の理論や基礎知識を書物やインターネットなどで調べて、各自理解を深めること。

教科書・参考書等

特に無し

オフィスアワー 丸：水曜日3時限目、工学部1号館7階1718号室（それ以外の時間はメール等で相談ください）

鶴町：金曜日2時限目、工学部2号館8階研究室（それ以外の時間はメール等で相談ください）

高橋：月曜日5時限目、教育学部1号館1階研究室（それ以外の時間はメール等で相談ください）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実験をふんだんに取り入れているので、服装などは実験しやすいものにしてください。一方、白衣着用の指示のある実験では、自分自身の保護のため、必ず白衣を着用してください。

文系学生向け科目のため、理系学生（医学部医学科生、創造工学部生、農学部生）は履修できません。